

# 「探究的な学習」 大中の取組 大中ラボ

## 1 プロジェクトの基本的な考え方

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

### 学習指導要領

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力  
(第1章第2の2の(2))

各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

### 令和の日本型学校教育

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

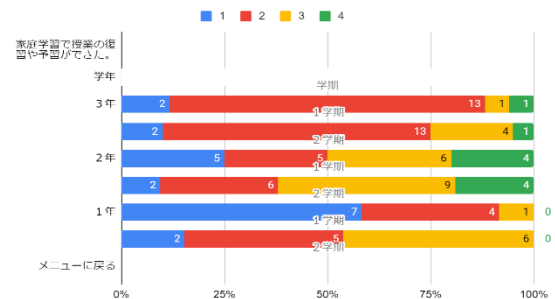


⇒社会状況の変化をうけ、主体的対話的学習や体験的な学習活動をとおして、思考力・表現力の育成が求められている。

(本校の実態)

各学年とも1学期に比べ2学期の家庭学習の取組が低くなっている。

継続した学習による達成感を体験させるためには、意欲を維持できる学習動機が必要と考えられる。



個々に設定した興味関心に基づく学習テーマの探究によって改善が図られるのではないかと?

## 2 プロジェクトの提案

令和4年1月26日職員会議にて校長から提案

### 1 学習活動の再編

#### (1) カリキュラムマネジメントプロジェクト

イ 卒論 3年間かけて一つのテーマを深め、卒業までに作成する。

(英語での概要版も作成する。)

総合的な学習の時間で実施し、1~3年生混成のゼミ形式で展開する。

町の国際交流員や高校の教員と連携し、教員は専門性を生かして指導する。

特別支援学級は卒論ではなく発表形態を工夫してプレゼンテーションする。

## 3 プロジェクト発足

進路指導部会 (R4 から進路学習部) で令和4年度実施のための企画立案

生徒一人一人のテーマ探究学習「大中ラボ」として準備開始

令和4年5月9日「大中ラボ」事前ガイダンス

#### 4 プロジェクトを推進するために

##### (1) 教職員、保護者、家庭の同意形成

- ・令和4年1月31日 新入生保護者対象相談会で令和4年度の教育活動について説明
- ・令和4年2月16日 職員会議「来年度のカリキュラムマネジメント構想について」(進路学習部)
- ・令和4年3月8日 1・2年生保護者会で令和4年度の教育活動について説明
- ・令和4年4月11日 朝礼で大中ラボ実施について生徒へ周知
- ・令和4年4月16日 保護者会で大中ラボ実施について保護者へ周知
- ・令和4年5月9日 朝礼にて大中ラボのテーマ設定について講話  
進路主任からガイダンス
- ・令和4年5月10日 大中ラボ第1回

##### (2) 指導(支援)方法の研修

- ・令和4年4月5日 職員会議「カリマネの進め方について」(進路学習部)
- ・令和4年5月9日 校内研修「事前ガイダンス」(進路学習部)
- ・令和4年6月29日 校内研修 N 高校企業部顧問鈴木氏講演  
「アントレプレナーシップ教育と探究学習について」

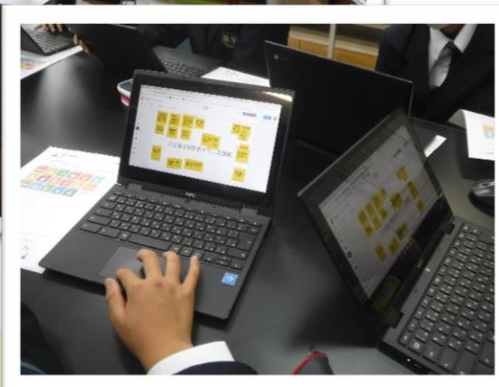
##### (3) 支援体制の構築

- ・保護者、地域からの指導支援、体験活動支援要請
- ・ホームページに生徒の取組及び進捗状況公開←外部からの指導・評価
- ・N 高校企業部顧問鈴木氏(校内研究での指導・助言)
- ・福井大学教職大学院准教授半原氏(校内研究での指導・助言)



#### ICT 活用

- ・シンキングツールの利用
- ・SITE を用いた情報公開
- ・FORM を用いた情報収集
- ・YOUTUBE を用いた発信
- ・MEET を用いたリモート会話



#### 重視する活動

- ・校外への調査、分析
- ・継続的な実証
- ・PDCA サイクルによる検証
- ・多様な視点、人材からの評価
- ・地域へ還元する意識醸成

